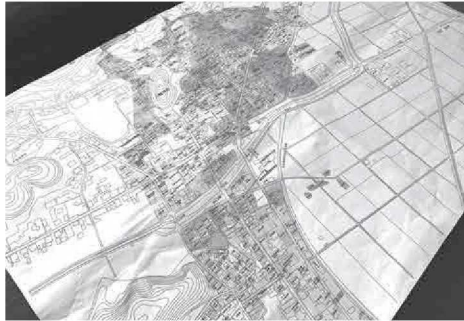


協働のまちづくり調査事業

地域の課題解決に取り組んでいくための持続可能な仕組みとは何か、地域と行政との協働のあり方はどうあるべきか、10年後、20年後を見据えた「みらい」を考える事業です。広報よさの6月号(No.184)では、金屋区と三河内区を取り組みを紹介していますので、併せてご覧ください。



地域情報を見える化した地図

地域支援員等意見交換会

8月3日、知遊館において協働のまちづくり調査事業地域支援員等意見交換会を開催しました。

3月の意見交換会に引き続き、福知山公立大学地域経営学部の杉岡秀紀准教授を講師にお招きし「話し合いの技法と実践」をテーマに講演いただきました。地域における話し合いや対話の重要性のほか、熱海市の土石流災害の事例から考える個人情報、国勢調査の速報値から見る人口推移を視点とした地域での取り組み方、課題への向き合い方を学びました。

後半のファシリテーションの実践では、話し合いの重要性やポイントについて体感・実感したことを意見交換。今後の地域活動の中での実践を通じ、地域の中の人づくりやにぎやかな地域づくりへの意気込みを共有しました。



地域支援員等意見交換会の様子

地域の実情に合った自治会組織となるべく区の規約改正を行いました。今まで以上に女性が参画しやすい体制を整え、区・区民・区内の各種団体がそれぞれの役割により、地域課題に取り組める自治会活動を推進したい」と山崎正道四

ついても言及されます。さらに、住宅地図に空き家をマークして、現状の見える化作業を進めています。図や数字による見える化は、感覚としてある地域課題をより鮮明に実感あるものにするだけでなく、予測される未来を映

し出します。「さまざまな資料やデータの蓄積は、自治会にとって今後の自治会活動を支えていく上での貴重な財産。区民と共有しながら地域づくりに活用できるアイデアをとらえ、活動を進めていきたい」と、情報やデータの収集・活用の重要性とこれ

からの地域づくりに対する考えを話されました。今後は、地域の情報発信力の向上とデータの共有を図りながら、将来を見据えた地域づくりと持続可能な区の運営を目指し、さまざまな取り組みが進められる予定です。

四辻区。このような地域でも人口減少や少子高齢化、空き家の増加、地域活動の縮小など、さまざまな課題が明らかになってきた中、持続可能な区の運営や地域活動の維持を図るための手立てが求められています。

持続可能な四辻区と地域活動の維持を目指して

現状の見える化で課題を共有
表面化してきた地域課題に向き合える自治会のあり方を検討し、将来を見据えた組織づくりを模索する一歩目として、区の活動の基軸となる規約改正に着手。「四辻区が地

辻区長。一方で「地域のごは地域で考え実行する力が求められています。持続可能な区の運営や自治会活動の推進には行政との協働は不可欠。地域課題に対する取り組みや自治会活動を推進できる持続性のある支援のあり方を



四辻区はフェイスブックでも情報を発信

協働のまちづくり

地域のみらいを考える 地域の取り組み (後編)

令和2年度から4区(金屋区・三河内区・岩屋区・四辻区)でスタートした協働のまちづくり調査事業。広報よさの6月号(No.184)に引き続き、安全・安心な暮らしと住みやすい地域づくりに向けて、これからの地域のあり方や必要な地域活動について、岩屋区と四辻区が進められている取り組みを紹介し

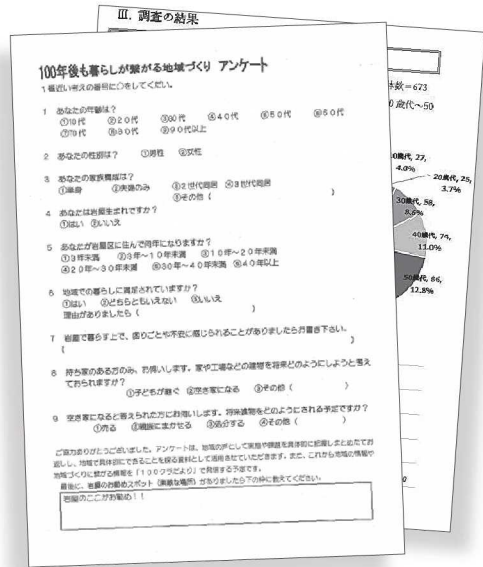
「つながり・交流」の地域づくり

岩屋区は与謝野町の最西部に位置し、地域の9割を山林が占め、中央に岩屋川が流れる自然豊かな地域です。田んぼ・川・公園・空き家などの地域資源を活かした取り組みや、区民の暮らしをサポートする活動を展開し、町内外を問わず「つながり・交流」の地域づくりが活発に行われています。

このような地域づくりにいち早く取り組まれてきた背景には、加速する人口減少と少子高齢化の地域課題がありま

した。地域内の商店等の減少や医療機関の閉鎖、保育所の閉所や小学校の休校などにより、区民生活は大きく変化し、今後ますます進む高齢化により、地域が抱える不安や課題が増えていく状況でした。このような状況の中、これまでの活動や取り組みに加え、岩屋での暮らしが「100年後-3世代先-」にもつながる地域づくりをみんなが考えようと発足したのが「100年暮らしが繋がる地域づくり推進委員会(愛称:100クラ)」です。

新たなつながりを生む 手作りのたより



区民に配布されたアンケート

100クラは、20から60歳代までのメンバーで構成。現在は7人が岩屋公民館を拠点に、岩屋の「むかし・いま・

100年後-3世代先-につながる岩屋づくり

後も暮らしが繋がる地域づくりアンケートを実施しました。地域支援員の石田美智代さんは、「岩屋区は個々の活動がとも活発で、個性にあふれています。地域の中の情報発信媒体として『100クラだより』がそれぞれの活動をゆるくつなげたり、スポット的につながりを生む場になればと期待しています。誰もが読みやすく、手に取ってもらえる、親しん

住宅地にも地域活動縮小の波
住宅が密集し地域内には役場や金融機関をはじめ、医療機関、商店等も集まっている

でもらえる紙面づくりを心がけています。豊かな気持ちで地域の暮らしが繋がるといいですね」と話します。今後は、アンケート結果を区民と共有し、地域でどのようなことができるのか、一緒にアイデアを出し合う場づくりについて話し合いが進められる予定です。



100クラが発行しているたより